

タカアザミの分布について

小野木 三郎

Notes on the distribution of *Cirsium pendulum* Fisch in Gifu Pref

Saburo ONOGI

タカアザミは、高さ1～2mに及ぶ壮大なアザミ属の1種で、北海道、本州(関東地方から北)、朝鮮半島、中国大陸(北部)、アムール、ウスリーに分布しており、右図のような分布地が知られている。北隆館の牧野新日本植物図鑑には、「東北地方から北方の湿地のある草原にはえる二年草、まれに関東及び中部にはえる。」と記述されているが、岐阜県内では知られていなかった。

特別展「長良川—流域の自然を訪ねて—」の準備調査中、昭和57年、昭和58年の6月に、長良川下流域の河川敷の採草地で、タカアザミの群生を確認した。(写真1, 2) 2万5千分の1の地形図「竹鼻」(NI-53-8-5-1)、羽島市西小藪地内の長良川両岸沿いの河川敷である。

岐阜市藪田、岐阜県庁南の畑の放置草地内にも確認され、長良川下流域に広く分布していると思われる。同定をお願いした京都大学理学部植物学教室の小山博滋先生によれば、「京大の標本庫で調べてみましたが、岐阜県産のものは入っておりません。山梨県河口湖と中山湖畔のものが、これまでの分布の西南限でした。」とのこと、また奥山春季先生からの私信によれば、「大陸から、野鳥等によって運ばれて来たことも考えられますが。」とあり、現時点では、本来の自生なのか渡来なのかははっきりしない。しかし、これだけ目立つ大型のアザミ属が、これまでに見落されてきたことも考えられない。「長良川の生物」岐阜県昭和32年刊、「岐阜県の植物」大衆書房昭和41年刊、等にも未記載である。本種の長良川下流域における分布域の詳細な把握と、今後の分布域拡大の動向調査は、今後の課題である。同定をお願いした小山・奥山両先生にお礼申し上げ、新産地として報告する。

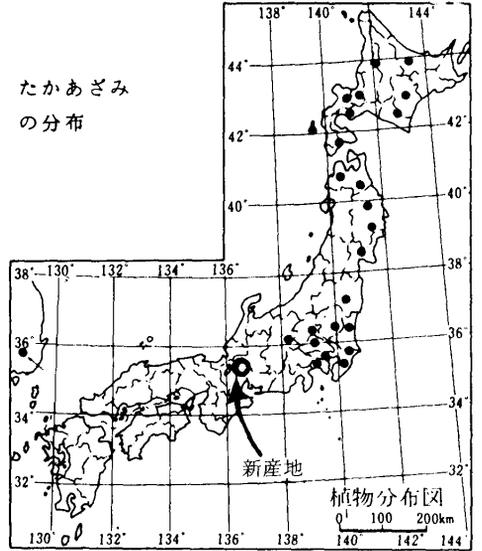


写真1 タカアザミの群生地



写真2 タカアザミの頭花